

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	福井県民生活協同組合	代表者	檜原 弘樹	法人・事業所の 特徴	宝永きらめきハウスは、「あなたらしさいつまでも」を基本理念とし、「せいきょう 10 の基本ケア」をケア指針に生活リハビリを行い、利用者がいつまでも住み慣れた自宅や地域で生活が続けられるようにサポートしています。きらめきでは、利用者同士の関係性も大切にしながら、利用者が自分の想いを話したり、やりたいことをしたりして自分らしく過ごしていただける事業所を目指しています。利用者やご家族の状況に合わせて、通い、訪問、泊りを行い、ニーズに合わせたサービスを提供します。
事業所名	県民せいきょう 宝永きらめきハウス	管理者	佐藤 裕平		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族		地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	0人	3人	0人	0人		1人	0人	2人	0人	6人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や家族の声を拾いながらその方のケアや活動に活かしています。 ご家族や他職種と関わる機会には、勤務調整を行い、なるべく多くの職員が参加できる環境を整えていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者や家族からの声を職員間で共有し、ケアや活動に活かせるようにしました。 家族会に現場の職員も参加することで、利用者家族と関わる機会が出来ました。 担当者会議には業務調整を行いながら介護職員の参加する機会を作っていますが、多くの職員が参加することは出来ませんでした。 		<ul style="list-style-type: none"> 利用者や家族と積極的なコミュニケーションを図り、自立支援のためのケアに活かしていきます。 担当者会議など、ご家族や多職種と話しができる機会には、ケアマネジャーだけでなく介護職員も出席しより良いケアを目指していきます。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> 継続して SNS で活動の発信を行います。 明るい挨拶と対応で、入りやすい事業所作りを継続します。 	<ul style="list-style-type: none"> Instagramにて日々の様子やイベント時の様子を発信しています。 接遇研修を行い、来客があった際は、明るい挨拶と対応を行うことが出来ました。 		<ul style="list-style-type: none"> SNS (Instagram) を継続し、施設での活動を発信していきます。 明るい挨拶と対応で、気持ち良く入りやすい事業所作りを継続します。
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェ、みんなの保健室の拡大を行いながら地域交流の機会を増やして行きます。 認知症カフェでは地域のお店や他事業所との連携し出前講座等を計画行い、みんなの保健室ではハーツ恐竜店（毎月第4木曜日）でも開催する計画です。 家族会、きらめき祭りを開催し、事業所と地域が交流できるような機会を作ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動では、集会室を利用した認知症カフェを継続開催し、地域の薬局や企業にも協力して頂いています。 「みんなの保健室」をハーツ志比口（毎月第2木曜日）やハーツ恐竜店（毎月第4木曜日）でも開催し、地域の声を聴く機会を増やすことが出来た。 10月にきらめき祭りや家族会を開催し、地域や利用者家族との交流を図ることが出来ました。 	<p>Q 地域の方に向けて介護相談会のイベントを開催してほしい。</p> <p>A、きらめき保健室の開催について案内強化します。また宝永地区向けへの介護相談会については来年度の計画に盛り込みながら考えていきたいと思えます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 認知症カフェに現場の職員が参加し、地域との交流機会を作ります。 継続してきらめき保健室・祭り・家族会を開催し利用者の楽しみや地域との交流機会を作ります。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> 地域向けに宝永きらめきの案内（宝永きらめき情報誌など）を民生員の方などと連携して、地域の方が相談しやすい施設を目指していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員によって地域の方に相談を受けた際の対応に差があった。 地域に出向く機会が特定の職員に集中し、地域交流の機会を職員にまんべんなく与えることが出来なかった。 		<ul style="list-style-type: none"> 事業所内のイベントだけでなく、地域に出向いてイベントに参加し地域との交流機会を作ります。 特定の職員だけではなく、宝永職員全体で地域に関われるような機会作りを行っていきます。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌、地域の回覧板を通じて運営推進会議の案内を継続します。県民せいきょうやきらめきが取り組んでいる活動を報告し、地域の困りごとや取り組みも一緒に考え、行動していきます。 災害リスクについて協議行い、連携図ります 	<ul style="list-style-type: none"> 地域での困りごとを共有し、意見の交換を行うことが出来ました。 広報誌、地域の回覧板の活用することできませんでした。 災害リスクの協議が弱く、情報の共有等に課題が残りました。 		<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議を職員、利用者、家族に参加していただけるようにします。 福祉避難所としての役割を地域の方と協議しながら災害対応を強化していきます。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内で防災訓練を2回（9月、3月）実施します。 福祉避難所として、要請があった際には、迅速に開設できるように、職員間で手順の確認、共有を行います。 運営推進会議や、その他地区集まりにて、事業所の防災計画を共有していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練を実施出来ました（9月実施済み。3月実施予定）。 BCP の研修を行い、施設として出来る事や災害があった際の対応の共有を行いました。 		<ul style="list-style-type: none"> 事業所内で防災訓練を2回実施します。 福祉避難所としての役割を地域の方と協議しながら災害対応を強化していきます。